

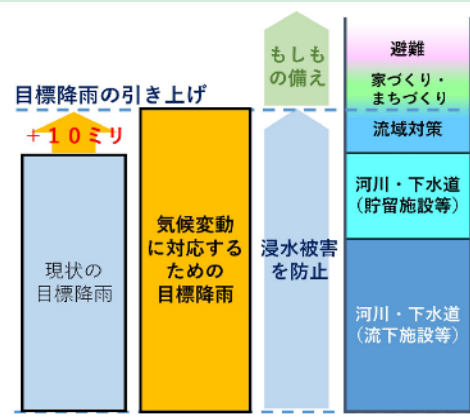
計画の概要・改定の背景

- 品川区では、区内全域での総合的な治水対策の計画的な推進を目指して「品川区総合治水対策推進計画」を平成3年3月に策定、平成25年3月に改訂し、区内の治水対策を推進
- 東京都は、近年の気候変動による豪雨のさらなる頻発化や激甚化、被害の拡大に対応するため、令和5年12月に「東京都豪雨対策基本方針」を改定

上位計画の改定を受けて、区内の治水対策を一層推進するため、
「品川区総合治水対策推進計画」の改定を実施

東京都豪雨対策基本方針(改定)のポイント

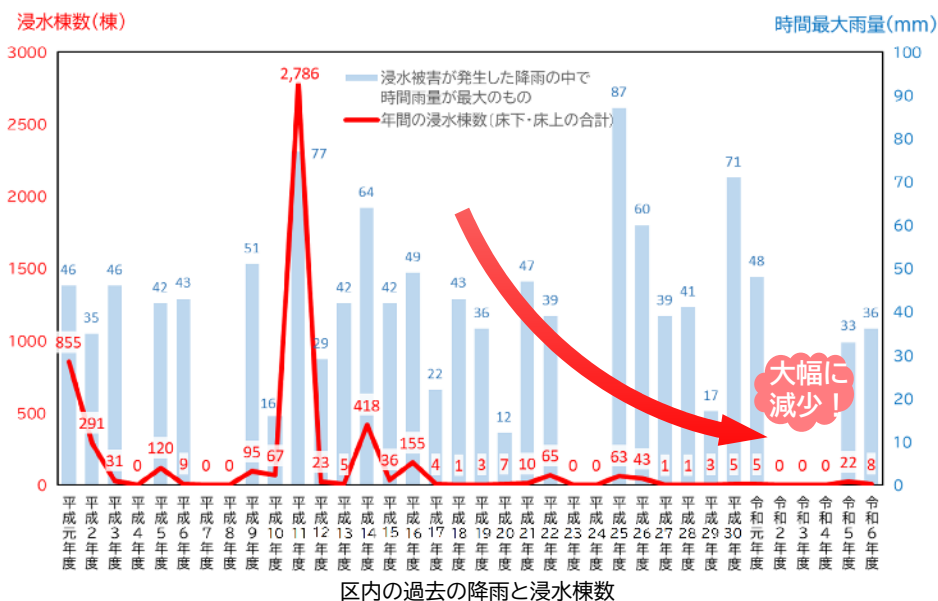
- 気候変動に伴う降雨量の増加に対応するため、
目標降雨を引き上げ(区部は時間85mm)
- 目標降雨に対して、
主に河川整備、下水道整備、流域対策で浸水被害を防止
- 目標を超える降雨に対しても、
家づくり・まちづくり対策、避難方策を加えた
5つの施策を組み合わせ、もしものに備える



目標降雨と各施策の役割分担
出典:東京都豪雨対策基本方針(改定)概要版

これまでの取組状況

- 平成10年頃まで、五反田駅周辺を中心とした目黒川沿いに、平成11年以降は立会川周辺や戸越銀座周辺、および三ツ木通りにかけて浸水被害が集中
- 平成11年8月の集中豪雨では、約2800棟の浸水被害が発生
- その後、区では、都と連携して総合的に治水対策に取り組んだことで、浸水被害が大幅に減少



流域対策

品川区の取組

- 公共施設における雨水貯留浸透施設の設置
- 一定規模以上の民間施設における雨水貯留浸透施設の設置指導
- 小規模民間施設における雨水浸透施設や雨水利用タンクの設置助成を実施
- 官民連携の取組によって、令和6年度までに達成すべき目標を達成



雨水貯留浸透施設整備事例



荏原調節池取水部

河川整備

東京都の取組

- 目黒川は、護岸整備が概成し、平成14年に荏原調節池も整備完了
- 立会川は、昭和40年代に上流部が暗渠化され下水道幹線として整備
- 区では、都に対して、河川整備の早期完了等を継続的に要望

下水道整備

都と区で連携

- 昭和62年より区が浸水対策事業の一部を受託し、都と連携して下水道事業を推進
- 雨水バイパス管や雨水調整池、雨水貯留管などの大規模な下水道施設も区で受託し整備

家づくり・まちづくり対策

品川区の取組

- 水害に関する適切な情報提供の実施や、浸水被害に強い家づくり・まちづくり対策を推進
- ハザードマップや浸水履歴の提供
- 防水板設置助成を実施
- 土のう置き場における土のうの提供

避難方策

品川区の取組

- 区民が自発的に適切な避難や防災対策を講じられるよう、情報提供の充実を図る
- 災害の事前に確認する情報の提供
- 災害時に確認する情報の提供

計画の目標

品川区総合治水対策推進計画における目標

「時間85mmの降雨まで浸水被害を防止」とする東京都の目標を実現するため、
下水道整備の受託事業等により取り組みを推進するとともに、
新たな取り組みにより流域対策の強化を図り、対策を一層推進する

方針1 関係機関との連携

目標降雨時間85mmに対応するため、品川区と東京都で役割分担しつつ、連携することで効果的かつ効率的に取り組みを推進

品川区	「流域対策」の推進 「下水道整備」受託事業による浸水対策の推進 「家づくり・まちづくり対策」の推進 「避難方策」の充実
東京都	「河川整備」の推進 「下水道整備」の推進 「流域対策」の支援

方針2 受託事業による浸水対策の促進

これまででも取り組んできた、都が実施する下水道事業の一部受託を継続し、区内の浸水対策を促進

- 第二戸越幹線整備事業
- 勝島地区雨水管整備事業

方針3 流域対策を強化

流域対策では、これまでの取り組みに加えて新たな取り組みにより対策を強化・加速

これまでの取組



新たな取組

- グリーンインフラの活用
- 流域対策等の広報強化

避難方策 ➡もしもの場合にも生命の安全を確保するため、適切な情報提供の充実を図ります

✓ 情報提供の充実

- ・品川区防災ポータル
- ・品川区防災アプリ
- ・豪雨情報
- ・河川情報
- ・浸水情報
- ・避難情報



✓ 防災力向上

- ・品川区地域防災計画
- ・しながわ防災ハンドブック
- ・東京マイタイム・ライン



品川区における総合治水対策 5つの施策

生命を守る
「避難方策」

水害に強い
「家づくり・まちづくり対策」

内水はん濫を防ぐ
「下水道整備」

外水はん濫を防ぐ
「河川整備」

雨水の流出を抑える
「流域対策」

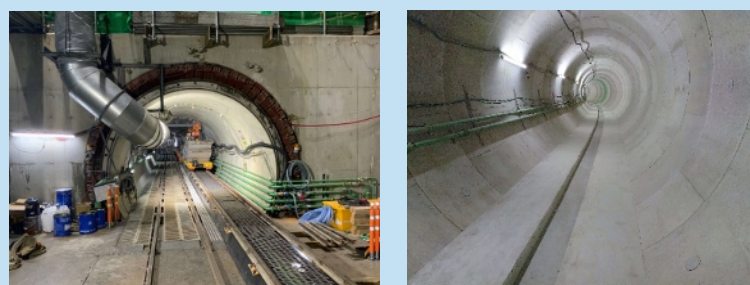
出典:東京都豪雨対策基本方針(改定)に加筆

下水道整備

➡区と都で連携し、浸水対策を推進します

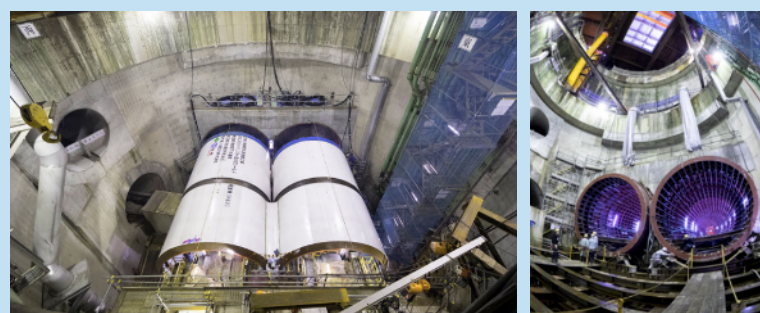
- 時間75mm降雨に対応する下水道施設整備に流域対策を加え、目標降雨(時間85mm)に対して内水はん濫防止を目指す
- リスクの高い地区を重点化し、幹線や基幹施設整備を推進
- 区内5か所が重点地区に該当し、1地区は完了、4地区は事業中

区 ✓ 第二戸越幹線整備事業 および勝島地区雨水管整備事業の推進



区 ✓ 下水道施設の早期整備を東京都へ要望

都 ✓ 立会川幹線雨水放流管整備事業の推進



家づくり・まちづくり対策 ➡もしもの場合に備えて、水害に強い家づくり・まちづくりを推進します

✓ 水害に強い家づくり
— 防水板設置助成



✓ 水害に強いまちづくり
— 土のうの提供



✓ ハザードマップ等の提供により
水害特性の理解を図る



河川整備

➡都が実施する河川整備の早期完了を要望します

- 気候変動を踏まえた目標降雨に対し、流域対策と合わせて、外水はん濫防止を目指す
- 対策強化流域を先行して整備を推進
- 区内2流域が対策強化流域に該当

- 区 ✓ 河川整備の早期完了を東京都へ要望
- 都 ✓ 目黒川流域調節池(仮称)の推進
- 都 ✓ 気候変動を踏まえた防潮堤整備(目黒川)
- 都 ✓ 高潮対策(樋門・排水機場整備)の推進(立会川)

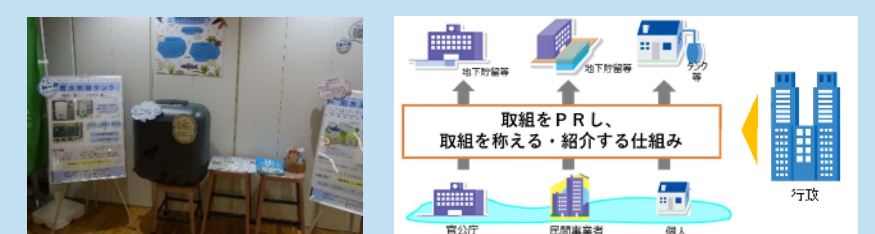
✓ グリーンインフラの活用

- ・民間開発におけるグリーンインフラの導入促進
- ・公共用地におけるグリーンインフラの整備推進
- ・グリーンインフラの機運醸成に向けた広報の充実



✓ 流域対策等の広報強化

- ・多様な媒体を活用した助成制度の広報
- ・流域対策に関するPR動画の作成
- ・流域対策の取り組みを積極的に実施している企業等を評価・共有できる仕組み作りの検討



出典:東京都豪雨対策基本方針(改定)

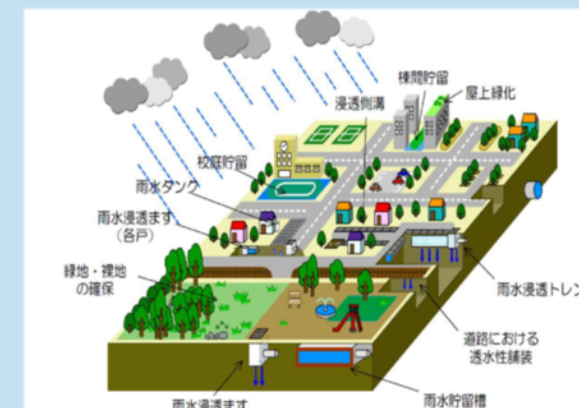
流域対策

➡グリーンインフラなどの新たな取り組みを加えて、雨水のしみこみやすいまちづくりを推進・加速します

- 令和19年度までに時間10mm相当の流域対策を実施するとともに、目標を達成したのちにも、流域対策の取り組みを継続

✓ 雨水貯留浸透施設の設置及び指導

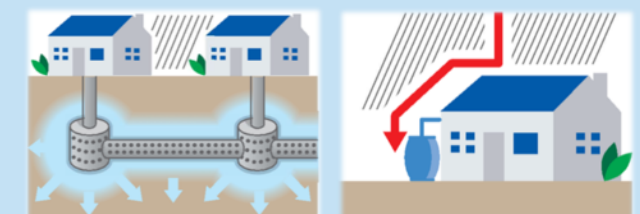
- ・公共施設への雨水貯留浸透施設設置
- ・民間施設への雨水貯留浸透施設設置の指導



出典:東京都豪雨対策基本方針(改定)

✓ 小規模民間施設における 浸水対策助成の実施

- ・雨水浸透施設設置助成
- ・雨水利用タンク設置助成



出典:豪雨災害からわが家を守る(パンフレット)
(東京都総合治水対策協議会)